

授業シラバス

詳細情報

2011-4030000406-01

科目名「クラス名」(サブタイトル)	期別	単位数	開講年次
貿易特別講義 B (体制移行の評価と民営化、腐敗)	後期	2	2
担当教員	木幡 伸二		

概要

1. 授業内容

BRICsと呼ばれて注目を集める新興経済国のなかで、ロシア及び中国は社会主義国から資本主義国へと経済体制を移行させた或はさせつつある「移行経済国」です。また、ポーランド等の中東欧諸国、アジアではベトナムもこれに該当します。いずれの国も、世界経済の成長に様々な形で寄与しており、我が国もその恩恵に浴しています。中国経済の発展が日本や世界の経済に及ぼす影響については、日本では広く知られるところですが、ロシア(旧ソ連)及び中東欧(旧東欧)諸国も、拡大したEU経済を牽引する原動力となっているのです。しかし、これらの国々が「移行経済国」であるが故に抱えている経済の特徴や問題点については、余り注目されていないのが現状です。そこで、本講義では、「貿易特別講義A」と共に、「体制移行」について全般的に検討してゆきたいと思います。それによって、これらの国々の経済に対する多面的な理解が深まれば、と考えます。

本講義では、第1に、移行経済国間の経済実績の比較、その差を生む経済実績の決定要因及び各国の進める制度改革について検討し、体制移行が何をもたらしたのかについて検討します。第2に、民営化という側面に焦点を当てて体制移行を考えます。移行国において民営化が必要な理由、民営化のタイプ、その経済学的背景等についての、更に、民営化の効果に関する実証研究の成果についても紹介します。第3に、体制移行に付随して現れる腐敗現象について述べます。腐敗に関する経済理論的な分析、腐敗の効果と要因に関する実証分析の紹介、腐敗の抑止、軽減のための政策について言及する予定です。第4に、体制移行の評価について述べます。そのなかで、実際に行われた意識調査の結果等についても紹介する予定です。そして最後に、このテキストのメインテーマである「移行経済国」は「なぜ資本主義に向かって脱走するのか」について、自らの考え方を述べたいと考えています。

2. 授業の進め方

授業は、(1)テキストの当該部分の要点の解説、(2)関連事項の説明、(3)質問と解説の順番で進めます。

また、テキストの各章または項目の説明終了後に小テストを行う予定です。

3. 学習の方法

事前学習では、テキストの当該部分を読み、そこでどのようなことが議論されているのかについて確認してください。

事後学習では、テキストや配付資料に基づいてノートを整理し、不明の点があれば参考書などで確認してください。それでも解決できない場合は、オフィスアワーなどの時間を使って遠慮なく質問してください。

到達目標

体制移行の実績比較、民営化の位置づけ、腐敗との関係及び移行への評価について学び、これらの項目の要点について説明することができるようにすることを目標とします。

成績評価基準および方法

定期試験の成績70%、小テストの評価30%を目安として評価します。

テキスト

中兼和津次著『体制移行の政治経済学』名古屋大学出版会、2010年 ISBN 9784815806361

参考書

溝端佐登史、吉井昌彦編『市場経済移行論』世界思想社、2002年 ISBN 9784790709435

中兼和津次著『経済発展と体制移行』(シリーズ現代中国経済1)名古屋大学出版会、2002年 ISBN 9784815804411

大津定美、吉井昌彦編著『ロシア・東欧経済論』ミネルヴァ書房、2004年 ISBN 9784623041596

履修上の留意点

受講者は、あらかじめ、中国経済の発展について学ぶ「アジア経済論A」(木幡担当)及び「貿易特別講義A(体制移行の背景、理論及び過程)」を受講してください。

授業計画

1 授業概要

2 体制移行の結果(1) 経済実績の比較

3 体制移行の結果(2) 実績の決定要因

4 体制移行の結果(3) 制度改革の進展

5 民営化の経済学(1) 経済学的背景

6 民営化の経済学(2) 民営化の進展

7 民営化の経済学(3) 国民の評価

8 体制移行と腐敗(1) 経済理論的分析

9 体制移行と腐敗(2) 実証的分析

10 体制移行と腐敗(3) 抑止のための政策

11 体制移行の評価(1) 評価の方法

12 体制移行の評価(2) 意識調査

13 体制移行の評価(3) 中国と中東

14 なぜ社会主義国は資本主義に向かって脱走するのか

15 授業のまとめ